

2020.2.28

ドバイ ガルフード出展報告

東京青果輸出室

ガルフード開催期間:2月16日~2月20日

メンバー:輸出者⇒市場仲卸 松和

市場卸 東京青果

生産者⇒静岡温室農協 クラウンメロン支所

みなみ信州農協

通関業者⇒インターナショナルエクスプレス(株)

ねらい: 日本の青果物を中東地域へ浸透させるために、世界最大の食の展覧会にて産地、流通業者(市場、通関業者)一体として、日本の青果物の優位性・こだわり・旬を、試食も使い説明し、販売ルートを築く。

**ガルフードは世界最大の食の展示商談会。今年は5000社が出展、10万人来場、うち日本からの出展者は44社(団体)

《状況》

訪問者は毎日ブースに100名以上訪れて、いちご、干し柿、クラウンメロン、長芋、さつまいもを試食され、説明を行なった。その中でも1日あたり2、3社は積極的に日本のものを購入したいといわれて、最終的には6社はすぐ取引したいとの意向がある。その中で3社については既に何らかの形で日本産の青果物を取り扱った経験があり、商品について特徴・こだわりなど一段掘り下げた情報を得たいとも言われた。商談件数(アンケート)は111枚になり世界22カ国、UAEが最多55名、サウジアラビア10名、インド8名であった。

《総括》

日本産を取り扱いたい希望はあるが、まとめてコスト面から200kg以上にならないと飛行機で輸入できない。また、多量を自己輸入するのはハードルが高いが、卸売り店があれば、そこから買うという方も多い(和食シェフ、パティシエ、プライベートギフト屋)。そのためには2つの方針を実行中。

1. 輸入代理をしてもよいと言っている会社を使い、数件分の小口荷物をまとめて配送する。そこから、各社へ配送手配。
2. 過去取り扱っていた会社で、商品知識がなかったのでチャンスロスとなっている会社に対してきめ細かい情報提供。卸売り拠点(販売代理店)として確立を図る。

